

司法試験合格体験報告

報告者 満村 和樹

【自己紹介】

2015年9月、半年間の留年の後、京都大学法学部を卒業。

2016年4月、大阪大学高等司法研究科に既修者として入学。

2018年3月、同研究科修了。

同年5月、平成30年度司法試験受験。

同年9月、平成30年度司法試験合格。

(2年次前期の成績は学年の半分ちょい下くらいの微妙な滑り出し。その後ももともと低調なモチベーションが急に上がってくることはなく3年後期に入るまではただただロー生生活を送る。参考までに、3年後期に入るまでの授業以外での勉強時間は(予習も含めて)3、4時間くらい。3年後期から司法試験までは5、6時間くらい。)

【はじめに】

・この時期(9月~10月頃)の情報収集の重要性

→①司法試験に向けた刺激として、②勉強方法や直前期の過ごし方等の参考として

・情報収集量はできるだけ多い方がいい理由

→①合格者の共通項を感じ取れる、②自分に合った(自分が納得できる)勉強方法や生活スタイルの情報に出会う確率が増える

⇒僕は去年のこの時期にいい情報をたくさん得られて、モチベーションが上がるとともに、自分に合った無駄のない勉強法を作り上げていった。その結果、短期決戦を実現できた。

【ゼミについて】

そもそもゼミによる効用の7、8割は「ペースメイク」と考えていた。

・できるだけ少人数で(3、4人がベスト)

自分が主体的に参加できて、やっていて楽しい状態じゃないとストレスになるだけ。

・できるだけ短時間で

4時間も5時間もかけるようなゼミでは疲れるし「ペースメイク」にもなりにくい。

・無理に成績のいい人と組もうとしない

優秀者とゼミを組んだところで自分が金魚のフンでは意味が無い。自分も主体的になれる相手かどうか、気が合う相手かどうか、ゼミでの勉強方針が共感できるかが重要。

・人の答案を読まない、読んでもらわない

だいぶん賛否両論あると思うが、僕はこの時間をかなり無駄と思って削っていた。上位

合格答案や参考答案を読んで内省することを最重要視。上位合格答案についてゼミ仲間と大雑把に話し合ったりはした。

・ゼミの内容はひたすらそこで答案を書くこと

最も「ペースメイク」としての機能を発揮できるのはこれ。一人じゃ答案なかなか書かない、書いたとしてもなーなーで時間過ぎても OK とかしちゃうことを防げる。

【個別の勉強方法について】

・短答（個人成績、憲法46/50点、民法51/75点、刑法46/50点、総合143点）

なんだかんだで直前期のラスト3ヶ月くらいに問題集3、4周できれば130~140点くらいはとれる。それまでは1周のスピードを上げるための作業と割り切った（肢別なら見なくていい肢を切っていく。択一六法なら新司で出た肢をマークして情報一元化）。

新司の肢しか見ない→旧司、オリジナルに手を出せば1周のスピードが落ちる、知識がぼやっと広がるだけで洗練されない。

憲法・民法は完全整理択一六法（LEC）、刑法は肢別（辰巳）。

民法は直前期に2周半くらいしかできず本番もふるわず。

・論文

知識は誰もが知っておくべき基礎を固めることに徹してもいい（それすら固まってない層は結構いる）。

あとは答案の練習。基礎知識から本番の事案に応じてロジカルで説得的な文章を書けるということがすごく重要。

全科目共通してやったこと 新司法試験の過去問演習（H25~29年ほぼ1周ずつ）

伊藤塾のペースメーカー論文答練

趣旨規範ハンドブック（辰巳）で直前ドーピング

民法 旧司の過去問（読み物としてまわしていく）

千葉先生の民法応用4の問題（似た問題がでた）

会社 ロースクール演習会社法

民訴 旧司の過去問

憲法 憲法演習ノート（学者の答案がみれる）

行政 事例研究行政法

刑法 刑法事例演習教材

刑訴 旧司の過去問

選択 知的財産法演習ノート

以上